

プロジェクトコーナー

当会は学校に行けない、医者にかかれぬという問題に対して、定期支援（奨学金や医療支援・12村対象）をするとともに、地域と期限（1～3年）を決めて、環境と生計のためのアグロフォレストリや村の保健ボランティア育成などの「プロジェクト」を実施しています。

「住民自身が問題の所在と原因に気づき、解決のために結束して取り組むことができるように」という住民のエンパワーメントも「プロジェクト」の大切な目的です。

飛び級試験を待つ子どもたち

— 持続可能な少数民族未就学児童のモスン教育 —

2年間のモスン教育事業（ひろしま祈りの石国際教育交流財団助成）は、チボリ語併記のテキスト作り、学校運営自主財源用のアヒルと鶏飼育、菜園経営、年長者（姉 Wogu）が年少者（妹 Woli）に教えて学ぶ方式などが、ある程度の成果を上げてこの3月に終了します。

このフリースクール運営継続のための自主財源については、2004年10月に学校菜園用地の土地問題が決着したばかりのバサグノフォークではまだ十分でないため、4月以降もサポートが必要です。

就学年齢を大幅に超えた数名の子どもたちが、飛び級試験や初等教育終了試験に向けて準備中です。



地主とのトラブルが解決して笑顔を見せるパーバラ先生（左）と、4年生になるための飛び級試験を受ける少女（12歳・2年生）

5年後の実りと平穏な村に戻る日を待つカンダンの人々

— 山岳部先住民族コミュニティにおける森林再生とアグロフォレストリ・モデル事業 —



フラミンジャが十分育つまでは等高線状に刈残したコゴングラスが土留めの役割を果たします。ピーナッツ、コーン、果樹苗、マホガニー苗などが同じく等高線状に植えられます。

（財）横浜市国際交流協会/YOKE 助成事業

前号で傾斜地農法による各種苗木の植え付けがほぼ完了したとお伝えした事業地域カンダン村の報告です。

住民組織 DACKO の役員の多くは、レイクセブでのセミナー（P1 参照）に参加して留守でしたが、PFP スタッフと住民の案内で山腹の畑をめぐり、簡易水道の水源がある谷にも下りてみました。涵養林の育成でこの貴重な水源が枯れないようにしたいと、住民は事業の成功に向けての強い決意を語ってくれました。

マンゴー苗の移植作業中の畑があり、11月のアースガーデン（代々木公園）で、苗木カンパに協力してくれた青年たちとの約束の苗木2本の成長を、PFP 経由で報告してもらうことにしました。

武装グループの姿を見かけるなど、このところカンダン村周辺の治安が悪化しています。苗木がすべて無事に育ち、5年後に日本の青年たちを村の収穫作業に招くためにも平和実現が希求されます。

平成 16 年度アグロフォレストリ2事業の総面積：60ヘクタール

植えた苗木：19,000本